

大阪のまちづくりグランドデザイン まちづくりレポート



大阪府・大阪市・堺市

〈INTRODUCTION〉まちづくりレポートとは

- 大阪府、大阪市、堺市では、2022年12月に万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う副首都として、大阪がさらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」を策定しました。
- このグランドデザインをまちづくりの羅針盤として、民間の活力を最大限引き出しながら、多様な主体が一体となって大阪全体のまちづくりを推進し、便利で住みやすく、そして成長する大阪をめざし、取組を進めています。
- このたび、大阪府内の各所においてグランドデザインの実現に向けて進められているまちづくりを、府民の皆様「知って」「見て」「参加」していただくことを目的に「まちづくりレポート」としてとりまとめました。
- ここでは、府内の様々な取組のうちまちびらきやビジョンの策定などの節目を迎えた主な取組をとりまとめるとともに、そのなかでも特に府民の皆様「まちづくりの進捗を実感していただける取組について、府内市町村がその内容やアピールポイントをまとめたものです。
- ぜひ現地まで足を運んでいただき、大阪まちづくりを実感していただけると幸いです。

2024年5月
大阪府・大阪市・堺市

【大阪の成長・発展に向けたイメージ】



〈CONTENTS〉大阪府内におけるまちづくり

〈府内全域〉

府内まちづくりの主な取組状況

① 大阪市

なんば駅周辺における空間再編推進事業（なんば広場（仮称））

② 堺市

堺都心周辺エリアの活性化に向けた取組（堺都心未来創造ビジョン）

③ 池田市

いけだ駅前活性化プロジェクト（いけだまちづくり「未完成」ビジョン）

④ 箕面市

北大阪急行線延伸と関連まちづくり（北大阪急行線延伸開業）

⑤ 茨木市

茨木市市民会館跡地エリア活用（茨木市文化子育て複合施設）

⑥ 寝屋川市

寝屋川公園駅周辺のまちづくり（施設一体型小中一貫校、西側駅前広場）

⑦ 守口市

エリアマネジメントの推進（守口市駅北側エリアリノベーション戦略）

⑧ 泉大津市

市民会館等跡地活用に係る取組（シーパspark）

⑨ 貝塚市

せんごくの杜整備事業（ドローン・クリケットフィールド）

⑩ 大阪狭山市

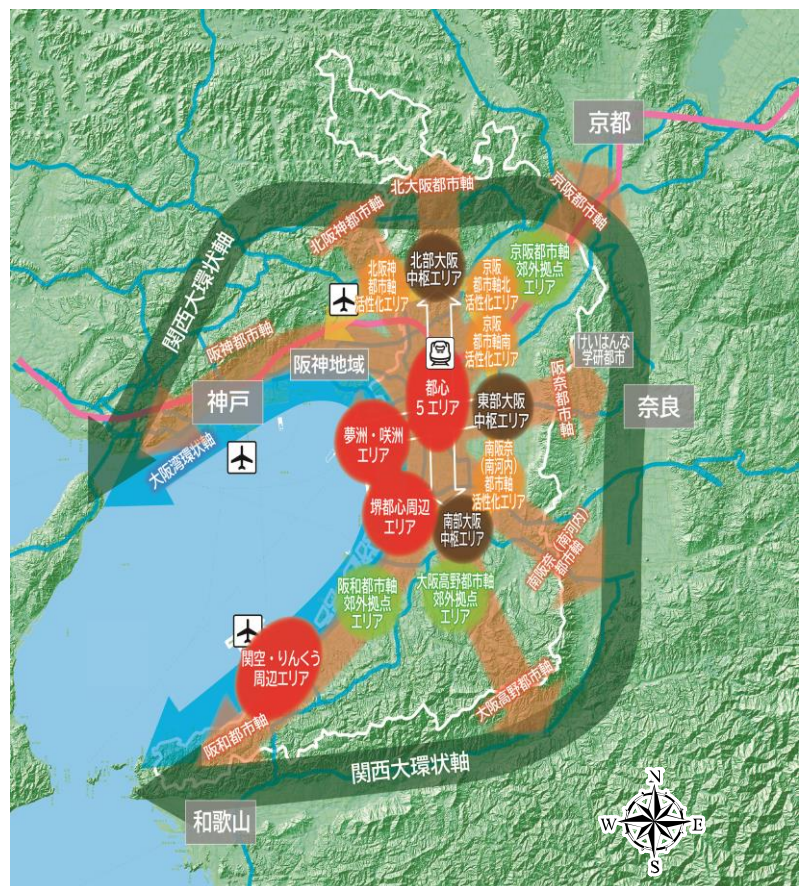
狭山池を中心とした水とみどりのネットワーク事業（副池オアシス公園リニューアル）

● 世界で存在感を発揮する拠点エリア

【大阪の中核を担うエリア】

- 東西・南北軸交点
- 放射軸交点
- 郊外部

【都心5エリア】



出典：地理院地図を加工して作成

府内まちづくりの主な取組状況

新大阪・大阪エリア

大阪・関西の中核、スーパーメガリージョンの西の拠点

- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022の策定(R4.6)
- ・大阪駅（うめきたエリア）開業(R5.3)
- ・エリアマネジメント団体「うめきたMMO」設立(R5.6)
- ・「大阪府・大阪市スーパーシティ型国家戦略特別区域 区域計画」の認定(R5.10)
- ・淀川河川敷十三エリアかわまちづくり計画の登録(R4.8)
- ・淀川河川敷十三エリア魅力向上事業に係る事業計画の公表(R5.11)

大阪城・周辺エリア

観光・文化・学術・産業の融合エリア

- ・大阪城東部地区のまちづくりの方向性（2022年度版）の策定(R4.12)

御堂筋・周辺エリア

高質で風格ある大阪のシンボリストリート

- ・側道歩行者空間化整備工事（道頓堀川～千日前通）(R4)
- ・御堂筋エリアにおける脱炭素先行地域の指定(R5.11)

なんば・天王寺・あべのエリア

大阪ならではの魅力を発信する文化観光拠点

- ・なんば広場（仮称）の先行オープン(R5.11)

中之島・周辺エリア

水・みどり・光を活かした水都大阪のシンボル

- ・大阪中之島美術館の開館(R4.2)

夢洲・咲洲エリア

国際観光・国際物流・国際交流拠点

- ・夢洲第2期区域のまちづくりの方向性の公表(R4.12)
- ・イノベーション創出拠点の形成
「R&D国際交流センター」と歩行者デッキ整備(R5.7)
「イノベーションセンター MIZUNO ENGINE」(R4.9)
- ・「大阪府・大阪市スーパーシティ型国家戦略特別区域 区域計画」の認定(R5.10)

堺都心周辺エリア

類いまれな歴史文化と多様な都市機能を有する拠点

- ・堺都心未来創造ビジョンの策定(R5.5)

● 世界で存在感を発揮する拠点エリア

【大阪の中核を担うエリア】

- 都心周辺部（東西・南北軸交点）
- 都心部周辺（放射軸交点）
- 都心部周辺（郊外部）



【都心5エリア】



北部大阪 中枢エリア

北部大阪の成長・発展をけん引するエリア

- ・万博記念公園駅前周辺地区に関する基本協定書の締結(R5.8)
- ・北大阪急行線延伸線の開業(R6.3)

東部大阪 中枢エリア

東西都市軸の強化・発展を担うエリア

- ・近畿大学との連携によるエリア価値向上に向けた地域研究(R6.3)

関空・りんくう周辺エリア

世界のゲートシティ・泉州南部の核

- ・スケートボードのできる多目的広場（愛称：RinX-SQUARE リンクススクエア）を設置(R5.6)



北阪神都市軸 活性化エリア

北阪神都市軸の発展を担うエリア

- ・ いけだまちづくり「未完成ビジョン」策定(R5.7)

京阪都市軸北 活性化エリア

京阪都市軸（北側）の発展を担うエリア

- ・ 鳥飼まちづくりグランドデザイン策定(R4.7)
- ・ 茨木市文化子育て複合施設「おにクル」開館(R5.11)

京阪都市軸南 活性化エリア

京阪都市軸（南側）の発展を担うエリア

- ・ 寝屋川公園駅周辺のまちづくり
(施設一体型小中一貫校、西側駅前広場) (R6.3)
- ・ 門真市庁舎エリア整備基本構想の策定(R5.6)
- ・ 古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想の策定 (R5.5)
- ・ 守口市駅エリアマネジメントの推進 (イオンタウン守口) (R5.12)
- ・ 四條畷市田原地域内の自動運転移動支援サービス (R6)

南阪奈（南河内）都市軸 活性化エリア

南阪奈（南河内）都市軸の発展を担うエリア

- ・ 大和川河川空間のオープン化「都市・地域再生等利用区域」の指定(R5.11)
- ・ 古市駅前「はびきのビジターセンター」の開設(R5.3)
- ・ アイセルシュラホール「観光拠点化基本構想」の策定(R5.3)

京阪都市軸 郊外拠点エリア

大阪・京都間の中心機能を担うエリア

- ・ 光善寺駅西地区市街地再開発事業における「ひらら光善寺」オープン(R5.12)
- ・ 「長尾駅周辺地区まちづくり構想」の策定 (R4.9)
- ・ 枚方市駅周辺再整備基本計画一部改訂 (R5.6)
- ・ 枚方市駅周辺エリアマネジメントに関する社会実験 (R6.3)
- ・ 「高槻城公園芸術文化劇場」オープン(R5.3)

大阪高野都市軸 郊外拠点エリア

泉州・南河内地域の核となるエリア

- ・ SENBOKUスマートシティコンソーシアム設立 (R4.6)
- ・ 泉北ニュータウン地域におけるAIオンデマンドバス実証事業 (R5.1~3、R5.10~R6.1)
- ・ 「堺エネルギー地産地消プロジェクト」が脱炭素先行地域に選定 (R4.4)
- ・ 光明池駅前地域活性化基本方針の策定 (R5.6)
- ・ 河内長野駅周辺地区まちづくり将来像 (案) の作成(R5.3)
- ・ 副池オアシス公園リニューアル (R4.4)

南部大阪 中枢エリア

南部大阪の成長・発展をけん引するエリア

- ・ イノベーション交流・共創拠点
「Community room cha-shitsu(茶室)」の開設(R5.10)
- ・ SMI美原ライン実証実験 (R4.10~12、R5.10~12)

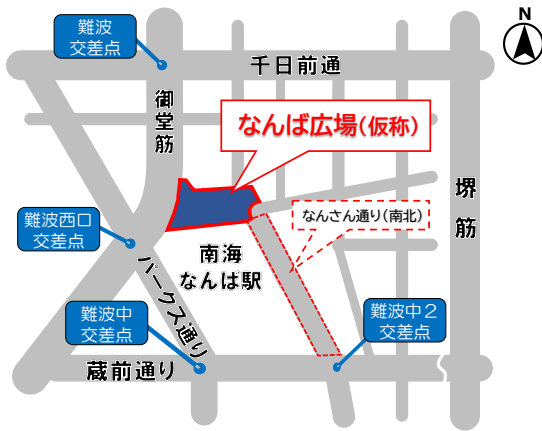
阪和都市軸 郊外拠点エリア

泉州・ベイエリアの核となるエリア

- ・ 泉州山手線沿道のまちづくりにおける新拠点交通広場
「山直東」開設(R4.11)
- ・ 「岸和田市山直東地区まちづくり基本構想及び基本計画」の策定 (R5.7)
- ・ せんごくの杜のまちづくりにおける
「ドローン・クリケットフィールド」の完成(R2.9)
- ・ 市民会館等跡地を活用した「シーバスパーク」の開園(R5.6)

(1) なんば駅周辺における空間再編推進事業（大阪市）

大阪市では、世界をひきつける観光拠点として、上質で居心地の良い空間の創出をめざし、より歩行者にとって安全で安心な空間となるよう、なんば駅周辺道路空間の再編に取り組んでおり、令和5年11月になんば駅前の道路空間をなんば広場（仮称）として先行的にオープンしました。



【なんば広場（仮称）】

従前のなんば駅前は主にタクシープールとして利用されていたため、入庫待ちの車が周辺道路に滞留するなど車中心の空間となっており、待ち合わせや休憩利用など人が憩える空間ではありませんでした。

また、インバウンドを中心とする観光客の増加などに伴い、歩行者通行量が増加し、周辺道路の歩行空間が不足していることも課題となっていました。

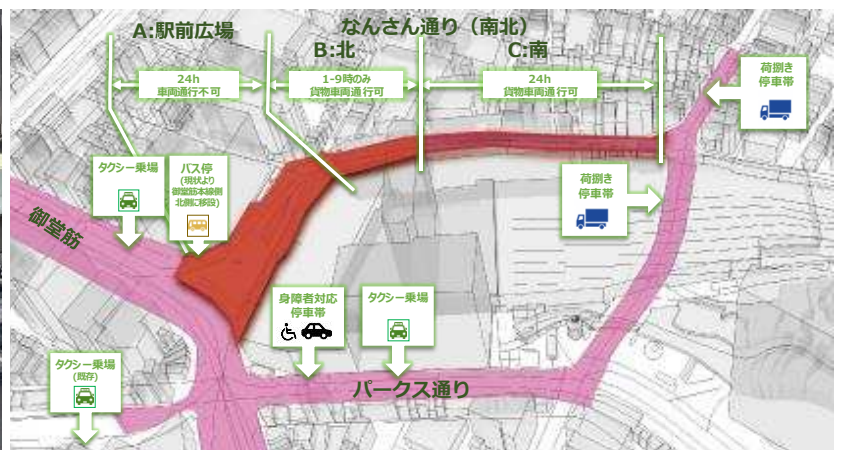


【なんば駅周辺の状況（整備前）】

そうした中、平成23年に地元の町会・商店街・企業等により「大阪の南の玄関口」としてふさわしい空間のあり方について検討が始まりました。その後、地元・経済界・行政が連携して平成28年と令和3年の2度にわたり実施した駅前空間を広場化する社会実験の結果を踏まえて、令和4年7月「なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン」を大阪市において策定し、令和4年9月に工事に着手したものです。



【社会実験時の様子（令和3年）】



【交通機能の再配置（なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン）】

なんば広場（仮称）では、再編後の道路空間におけるにぎわいの持続的な発展のため、行政と適切に役割分担を行いながら、地域と連携したエリアマネジメント組織が担い手となる管理運営をめざし、広場のオープン後、2025大阪・関西万博に向けて当面の間、本市と地元団体が連携しながら広場の管理運営を行う社会実験を実施しています。

【実施主体】

なんば広場マネジメント法人設立準備委員会

構成員・・・南海電気鉄道株式会社、株式会社高島屋、戎橋筋商店街振興組合、なんさん通り商店会、株式会社丸井

【実施内容】

- ・地域活性化や文化振興等に資するイベント開催などの広場の利活用
- ・広場の清掃や警備などの地域の環境保全活動
- ・活動財源の確保を含めたエリアマネジメントの仕組みの構築

The infographic is divided into several sections. On the left, a vertical banner reads '地域環境を保全するベースの取組' (Measures to preserve the local environment) and '地域環境保全が実現してきた上で実施する取組' (Measures implemented after local environment preservation is achieved). The main content is organized into four quadrants:

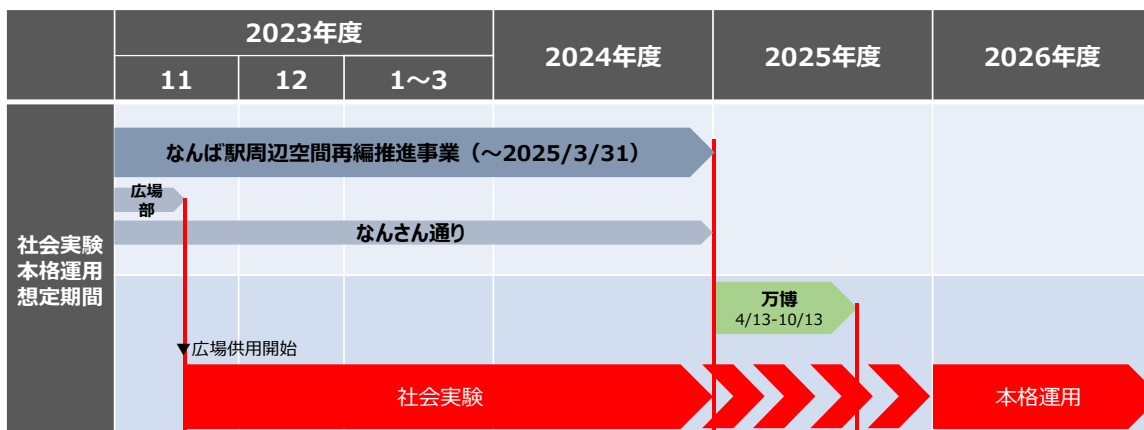
- Top-Left (Yellow):** '地域環境保全の実施内容イメージ(将来)' (Future implementation content for local environment preservation). It lists: ①清掃 (Cleaning: 〇業者による清掃, 〇地域による清掃活動), ②警備 (Security: 〇警備員の配置, 〇防犯カメラの設置, 〇誘犯パトロール), ③自転車対策 (Bicycle measures: 〇放置自転車対策・押し歩きルールの周知, 〇放置自転車啓蒙活動, 〇放置自転車撤去協力, 〇押し歩きルール周知), ④道路の適正利用 (Proper road use: 〇通行者の誘導, 〇荷捌きルールの周知, 〇道路不正占有への指導). Below this is '利活用(広場で実現したいこと)' (Utilization) with ①休憩・待ち合わせ, ②地域魅力の情報発信, ③安全・防災, ④地域連携による回遊性向上. It also shows '(a)広告' and '(b)イベント利用等'.
- Top-Right (Green):** '財源を確保し地域環境保全に充当' (Securing funds for local environment preservation).
- Bottom-Right (Green):** '財源確保手法' (Funding securing methods) with '●社会実験期間で実施する取組(予定)' (Measures to be implemented during the social experiment period (tentative)), including '(a)広告' and '(b)イベント利用等'.

 On the right side, there are two photographs: the top one shows a busy pedestrian street with blue awnings, and the bottom one shows a large crowd gathered for an event under a white canopy.

【社会実験の実施内容】

【イベント開催時の様子】
(道頓堀りバーフェスティバル2023)

今後は、2025大阪・関西万博前の令和6年度末を目処になんさん通り（南北）を含む全体完成をめざして引き続き整備工事を進めていきます。また、社会実験の結果を踏まえて、高質な空間を維持しつつ、広場のにぎわいが持続的に発展していくよう、地域が主体となったエリアマネジメントによる管理運営の本格運用に向けて取り組んでいます。



【本格運用に向けた今後のスケジュール】



最新情報については
大阪市HPをご覧ください

(2) 堺都心周辺エリアの活性化に向けた取組（堺市）



SMI都心ライン

自動運転車両と停留所近くに賑わいのある滞留空間が設置されている



環濠水辺

都市の中の水辺を身近に感じる空間で、人々がそれぞれの時間を楽しみ、くつろぎ、すごしている



堺旧港

海が見える階段式の護岸や隣接する宿泊・賑わい施設で人々が海を感じながら、憩い・交流している



堺駅前周辺

関西国際空港・国土軸を結ぶ関西の広域的なアクセスの中心、堺の玄関口として、国内外から多様な交流が創出されている

※パースは、将来をイメージしたものであり確定したものではありません

最新情報については
堺市HPをご覧ください



2023（令和5）年5月「堺都心」

堺都心周辺エリアの未来に向けて、類いまれな歴史文化や
きつめる魅力を高め、人が出会い・交流する場、「それ
ウォーカブルな空間」を創出し、魅力的な堺都心周辺工

<目標年次>

2040（令和22）年度

大阪・関西万博の開催

なにわ筋線の開業

2025
令和7

2030
令和12

<コンセプト>

多様な人が交流し、企業が集まる、堺の
～新たな価値の創造と都



「心未来創造ビジョン」を策定

文化や多様な都市機能等の地域資源を活かし、「人を惹きつける」
「それらをつなぐ居心地が良く歩きたくなる人中心の
拠点エリアをめざします。

浅香山駅～堺東駅付近における
南海高野線の高架化

2040
令和22

堺の成長をけん引する魅力的な堺都心部 の形成と都市ブランドの確立～



瓦町公園周辺

人々が集い、憩う緑の空間とあわせて、商業施設での購買
など、多くの人を楽しんでいる



商店街北側周辺

飲食・物販など、歩いて楽しい通りが広がっている



大小路筋(市役所北側)

次世代都市交通ARTが走行する車道・広い歩道・Minaさかい等が一体の空間となったウォカブルなシンボルの空間で人々が憩い・交流している



堺東駅前周辺

旅行者や買い物客など多様な人が交流・滞在している

※パースは、将来をイメージしたものであり確定したものではありません

(3) いけだ駅前活性化プロジェクト (池田市)

将来、池田駅前は こんなふう「なったらいいな」



【対象エリア】



阪急池田駅を中心に五月山動物園からカップヌードルミュージアム大阪池田を含む「駅周辺エリア」をもっと居心地が良く、歩きたくなる「まちなか」にするための、いけだ駅前活性化プロジェクト。

国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」を活用し、市民、地元の事業者や商店主、学生、まち会社やNPO団体、市職員などの有志で構成する「いけだエリアプラットフォーム」を設立し、これからの池田駅前の活性化に向けた駅周辺エリアの未来ビジョン『いけだ まちづくり「未完成」ビジョン』を策定しました。

プロジェクトロゴとメンバーのみなさん



さまざまな主体が関わりあい、それぞれの「だったらいいな」を重ね合わせて導きだした将来像「ひととまちと自然がゆるやかに繋がり過ごしたくなる いけだ駅前」の実現に向け、駅前広場等の「駅まち空間の利活用」とポケットパークや公園、商業集積等の「まちなか拠点での交流促進」を官民連携で今後取り組んでいきます。

「ひととまちと自然がゆるやかに繋がり過ごしたくなる いけだ駅前」の実現に向けた駅前空間の使いこなしイメージ



いけだ駅前の未来について、みんなで考えてみた件。



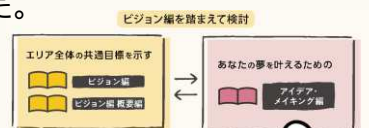
なんで「未完成」ビジョンなん？

本ビジョン策定の3つの視点

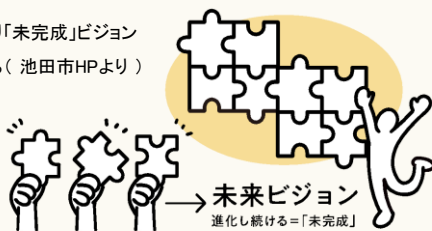
- ①現時点でみんなが目指す「いけだ駅前の将来像」を示す
- ②完成後も新たな市民がビジョンの作成に参加できるプロセスを残す
- ③まちづくりの進歩にあわせ、常に更新され進化するビジョンを作る

まちづくりには目標があっても終わりではなく、市民みんなの想いを紡ぎながら活動するプロセスそのものがまちづくりなのだと思いを込めて「未完成ビジョン」と名付けました。

ビジョンは、エリア全体の共通の目標を示す「ビジョン編」と個々のビジョン(夢)を叶えるための「アイデア・メイキング編(ワークブック式)」で構成しています。



いけだ まちづくり「未完成」ビジョン
についてはこちら(池田市HPより)



いけだ方式「官民連携まちなか再生」

令和3年（2021年）10月よりスタートしたプロジェクトでは、ミーティングを重ねながら駅前を「こんな風に使ってみたい、使ってほしい」とみんなで考えたアイデアを、検証する社会実験イベント「おさんぽマルシェ in IKEDA」を令和4年（2022年）6月に開催し、その結果を踏まえて『いけだまちづくり「未完成」ビジョン』を策定しました。

ビジョンを策定した後も、池田駅南側の駅前空間を再整備し使いこなしていくための社会実験を実施するなど、さまざまな取組みを進めています。



【R4.6.11 おさんぽマルシェ】 駅前ならではの新しい発見や出会い、豊かな未来が芽生える魅力的な1日



【R5.10.30 ~ 11.12 おさんぽマルシェ】 駅まち空間を、もっと楽しく使いこなす14日間の社会実験



まちなか再生を進めていくには、人が集まり、議論・行動するというプロセスを何度も繰り返しながら活動を持続させ、より良いものにしていく必要があります。

いけだ方式の官民連携まちなか再生では、次の2点を重視して事業を推進します。

- ① 市民が中心になって活発に活動し、それを行政がそつと後支える官民連携型での事業の実施。
- ② 社会実験とビジョンの作成を繰り返し、持続する組織の構築と地域人材を育成するプロセス重視型事業の実施。

「未完成」ビジョンも活動のプロセスの中で随時更新していく予定です。社会実験やイベントなど、たくさんの参加の機会を作っていきますので、いけだ駅前活性化プロジェクトにぜひご参加ください！

駅南再整備イメージ（令和7年度完成予定）



いけだまちなかラボ SUBACO(スパコ)

駅まち空間をテーマに市民が交流し、『いけだまちづくり「未完成」ビジョン』を共有・更新する場所として、いけだエリアプラットフォームの仮拠点「いけだまちなかラボ SUBACO」ができました。「おさんぽマルシェ in IKEDA」などの社会実験の話し合いの場所としてだけでなく、「まちづくり相談窓口」や、あなただけの「ビジョン」を作るためのフィールドワーク、エリアプラットフォームメンバー発案企画などを実施しています。ぜひSUBACOにもお立ち寄りください！



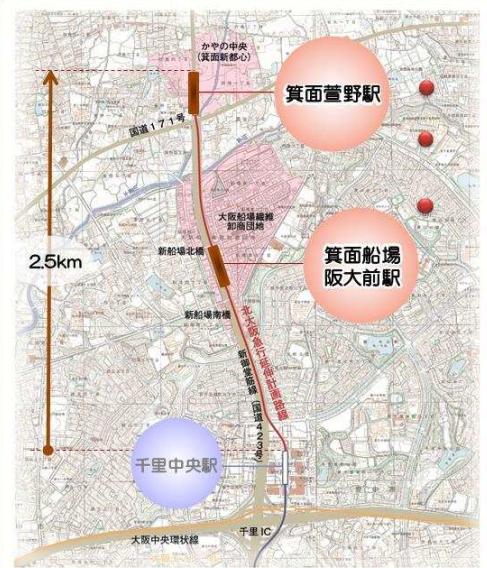
詳しくはエリプラ
webサイトへ
<https://ekimachi-ikeda.jp>



(4) 北大阪急行線延伸と関連まちづくり (箕面市)



[北大阪急行線の延伸計画]



○取組の概要

本事業は千里中央駅から北へ2.5キロ伸ばし、箕面市内に箕面船場阪大前駅と箕面萱野駅を新設する事業です。2014年3月に大阪府と箕面市、北大阪急行電鉄、阪急電鉄の4者で路線の概要や費用負担割合などについて基本合意しました。

整備主体は箕面市と北大阪急行電鉄です。区間の内、箕面市は箕面船場阪大前駅から箕面萱野駅までのコンクリート構造物や駅舎を整備しています。この区間のレールや駅の内装は北大阪急行電鉄が整備しています。箕面船場阪大前駅と千里中央駅の区間は北大阪急行電鉄が整備しています。整備後の鉄道の運行は北大阪急行電鉄が行います。

○開業時期

箕面市と北大阪急行電鉄では、北大阪急行電鉄南北線を千里中央駅から北へ約2.5km延伸し、「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」の2駅を新設する工事を進めています。その工事も順調に進捗しており、各種試験や検査の実施に概ね目処をつけたことなどを総合的に判断し、北大阪急行電鉄南北線延伸線の開業日を2024年(令和6年)3月23日(土曜日)に決定しました。

○アピールポイント、交通アクセス、立地等

北大阪急行電鉄南北線延伸線の開業に伴い、新大阪や梅田、なんばなど、大阪都心部まで乗り換えなしの鉄道アクセスが誕生します。

また、箕面萱野駅には、バスターミナルを整備し北急延伸の効果を市全体へ波及させるため、市内バス路線網を再編します。これらにより、箕面市域の公共交通による移動の利便性を広範囲に向上させるとともに、マイカーから公共交通へと移動手段のシフトが進み、国道423号(新御堂筋)をはじめとする、幹線道路およびその周辺の交通混雑緩和や環境負荷低減効果も期待されています。

さらに、新駅開業の経済波及効果は、初期効果として3227億円、年間の効果として614億円/年を見込んでおり、延伸線は、両駅合わせ1日に約45,000人が乗降すると予想されています。

[箕面船場阪大前駅周辺のイメージ]



○駅周辺のまちづくり

箕面船場阪大前駅周辺では、既に、客席数1401席を誇る文化芸能劇場や大阪大学箕面キャンパス(外国語学部)の移転開校に合わせ大学図書館の機能を持つ蔵書数71万冊を擁する市立船場図書館などの整備が完了し、新駅開業を前に「第1期まちびらき」を迎えました。

大阪大学外国語学部の学生、留学生との連携による多文化共生の推進やホールでのイベントによる文化芸術の振興など「文化芸能・国際交流の拠点」としてまちの賑わいが創出されています。

現在は、新駅開業に合わせた「第2期まちびらき」へ向け、駅エントランスや駅前広場などの整備が最終段階を迎えています。駅前広場は憩いの空間として植栽やベンチ等を配置し、イベントも開催できるため新たな賑わいを創出します。

さらに、本市では2025年の大阪・関西万博の共創パートナーとして各種取り組みも支援しています。

箕面萱野駅周辺は、広域的な交通結節点機能を担うエリアとして位置づけ、バス路線網再編の拠点となるバスターミナルの他、タクシーバス、駐輪場などを有する交通広場を整備します。

さらに、駅前のさらなる賑わいを創出するため、バスターミナル上空を活用し、民間事業者が商業機能を中心とする駅前ビルの整備を進め、活気と持続性のある魅力あふれるまち箕面の発展に取り組んでまいります。

[文化芸能劇場と船場図書館]



[駅エントランスと船場広場]



[箕面萱野駅周辺のイメージ]



○バス路線の再編

令和5年度末の北大阪急行線延伸線の開業にあわせて、市内の路線バスが再編されます。

バスと鉄道の結節点を現在の千里中央駅から新たに箕面萱野駅に移し、バス路線網を大幅に充実させることで、市内移動がより便利な都市が実現します。

[バス路線網の再編イメージ]



最新情報については箕面市HPをご覧ください

(5) 茨木市市民会館跡地エリア活用 (茨木市)

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル 2023.11.26 OPEN



おにクル
ONIKURU

おにクル の由来

名称を一般募集し、全2,677件の中から市民投票によって選ばれました。6歳(当時)のお子さんの案が採用。

まちのあちこちで目にする鬼のキャラクターいばらき童子を見て「こわい鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃうところ」という思いが込められています。

ロゴは鬼の力強い目と広がりを感じられるマークとなっています。

〇 中心市街地のまちづくり「次なる茨木グランドデザイン」

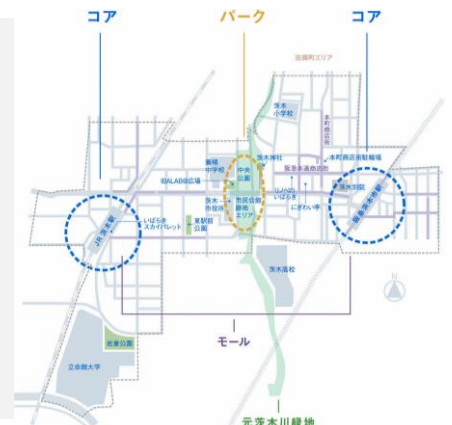
茨木市の中心市街地では、両駅の周辺のエリアを「コア」、その中央にある市役所や広場、元茨木川緑地周辺のエリアを「パーク」と位置づけ、「2コア1パーク」の都市構造をグランドデザインの骨格とし、まちづくりを進めています。

市民・民間・行政など、多様な人々が関わり合って、まちの将来像をみんなで一緒に作りあげていくプロセスを大切にしています。

おにクルは、JR茨木駅と阪急茨木市駅の両駅を結ぶ「東西軸」と元茨木川緑地の豊かな自然が広がる「南北軸」が交わっている、まちの中心部に位置しています。



次なる茨木グランドデザイン についてはこちら↑



〇 おにクルの概要

・立体的な公園

元茨木川緑地の豊かな緑と、おにクルの芝生広場や建物のテラスに施された樹木がゆるやかに繋がっていることから、ランドスケープと建築が相互に浸透し合う「立体的な公園」のような公共空間になっています。

・日々何かが起こり、誰かと出会う

おにクルは、ホール、図書館、こども支援センター、市民活動センターなどが組み合わさる多機能の複合施設で、「縦の道」と呼ばれる、各フロアを貫く大きな吹き抜けとエスカレーターが大きな特徴です。この「縦の道」によって各機能が繋がったり、他の階の音や空気感が伝わり来館者の興味を刺激するなど、「日々何かが起こり、誰かと出会う」場となっています。

7F
市民活動センター
プラネタリウム
屋上広場
会議室・和室
コワーキングスペース

6F
図書館

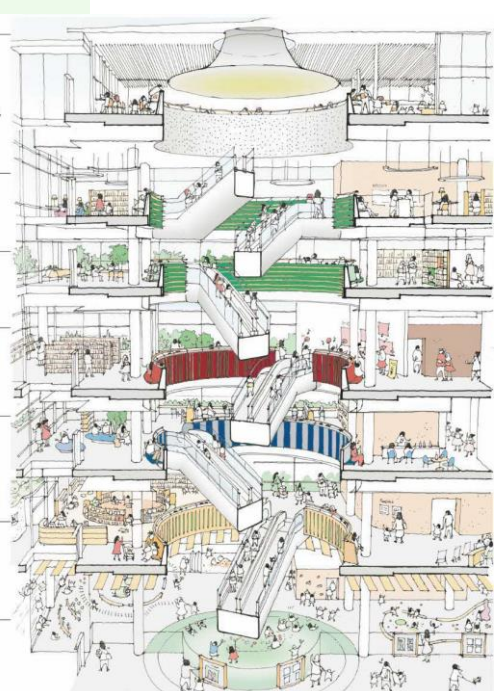
5F
図書館
大ホール2階席

4F
大ホール1階席
大ホールホワイエ
カフェラウンジ

3F
大ホール舞台・楽屋
リハール室
多目的スタジオ
(ダンス・演劇・音楽)

2F
こども支援センター
えほんひろば
おはなしのいえ

1F
エントランス広場
多目的ホール
屋内こども広場



図書館 ぶっくぱーく



屋内こども広場
まちなかの森 もっくる

〇 おにクルができるまでのプロセス



昭和44年(1969年)の開館以来、長年にわたり茨木市の文化芸術活動を支えてきた茨木市市民会館は、経年劣化や耐震性、バリアフリーなどさまざまな課題から、平成27年(2012年)12月に閉館しました。
→平成28年度から市民のみなさんとの対話を基本に、跡地活用の検討をはじめました。

市民会館100人会議 (平成28年度)
無作為抽出した市民5,000人に参加依頼し、合計99人と市長が直接対話しました。ホールに関する意見や、「憩い」「交流」「にぎわい」などのキーワードが出てきました。

キーコンセプトは「育てる広場」 この場所をどう使い、どう活動し、どう変えていくかは、市民自身で考え、市民自身の手により、作り上げていく

《STEP1》基本構想・基本計画 (平成30年度)

⇒みんなで広場を作り、実際に使ってみる社会実験 (IBALAB)



《STEP2》拠点間で使える場所をみんなで発掘 (令和元年度)

⇒まちなかのちょっとした空間を実際に使ってみる社会実験 (IBALAB plus)



《STEP3》暫定広場の整備・活用 (令和2年度～)

⇒ 暫定広場を使って、活動を生みながら、広場の管理・運営や市民の関わり方について検証する社会実験 (IBALAB@広場)



《STEP4》新しい施設・広場「おにクル」整備

⇒ 施設に関するワークショップや新たなプレーヤーの発掘・育成、様々な寄付の取り組みを通して愛着を育み、令和5年の開館すぐ、活発に使われる場所へ



一おにクルへのアクセス

〈電車の場合〉
阪急茨木市駅・JR茨木駅いずれからも徒歩約10分
〈バスの場合〉
阪急・近鉄・京阪バス「茨木市役所前」バス停下車すぐ
住所：茨木市駅前三丁目9番45号



おにクルの最新情報についてはおにクルホームページをご覧ください

(6) 寝屋川公園駅周辺のまちづくり (寝屋川市)

まちのリノベーションの推進

まちのメインアイコンとなる施設一体型小中一貫校や駅前広場の再整備、広大で優良な寝屋川公園を活かしたまちづくりに取り組んでおり、新たな学校や緑豊かな自然などの生活環境など、「生活スタイルを重視する」子育て世代をメインターゲットとした、選ばれるコンパクトで利便性の高いまちづくりを進めています。



望が丘小学校・中学校(施設一体型小中一貫校)



開放的な「吹き抜け」の空間



オープンドア型の教室



メディアスペース

壁一面を覆う巨大本棚。気軽に本を手にとって自然に読書や語らいが生まれます。



明和小学校、梅が丘小学校、第四中学校を統合し、子どもたちに「新しい時代の学生生活」を提案する施設一体型小中一貫校を、まちのメインアイコンと位置付けて整備しました。設計監修は日本を代表する世界的建築家の隈研吾氏です。



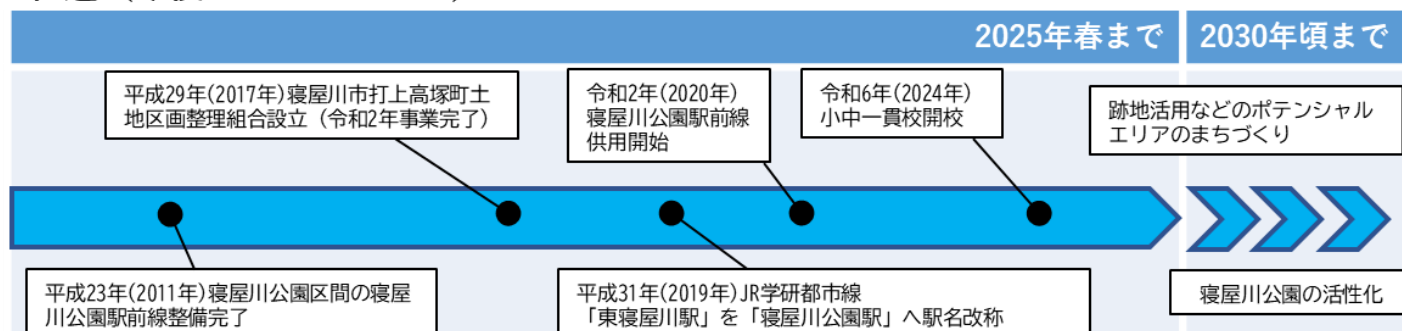
地域交流スペース「望が丘ランチ」

寝屋川公園駅西側広場

令和6年3月末完成



経過（今後のスケジュール）



(7) 守口市駅北側エリアマネジメントの推進 (守口市)

1. 事業の概要

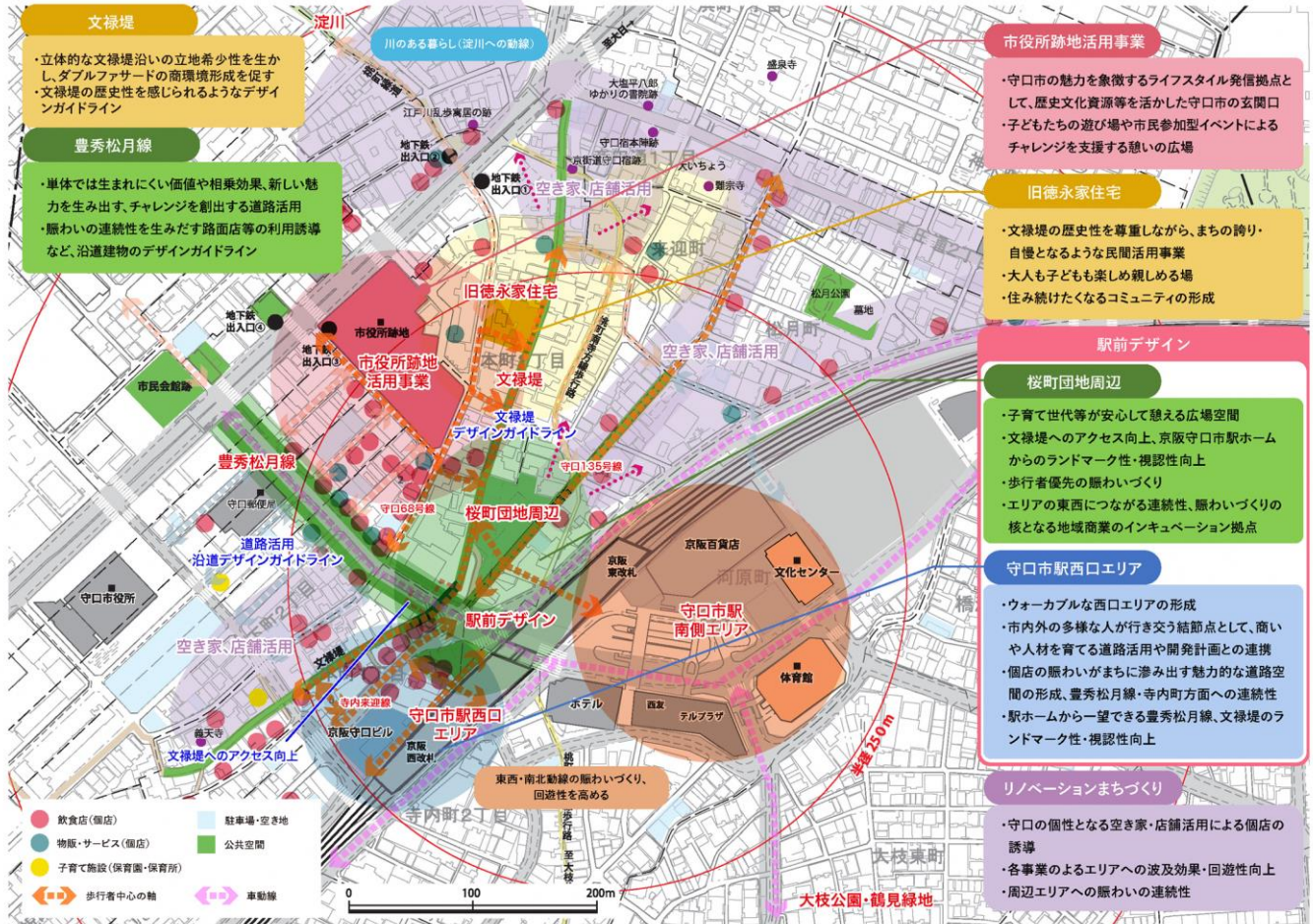
守口市駅北側エリアリノベーション戦略

守口市駅北側エリアを対象とし、守口の魅力と出会う機会を増やすことや、市内外の多くの人を惹きつける地域のランドマークとなる都市の顔づくり、それらの魅力の発信による都市イメージの向上など、公民が連携して、共にエリア価値向上に取り組むためのアクションプランとして、「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」を策定しました。

エリアリノベーションとは

社会構造の変化するスピードが早い現代の新しいまちづくりとして、低利用の公共空間や空き家・空き地等を活用し、チャレンジできる場づくりやリノベーションによりまちの魅力を積み上げ、エリアの価値やイメージを向上させるエリア形成手法

エリアゾーニング及び各事業の取組方針



(出典：「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」(令和5年3月策定))

2. 事業の特徴

社会実験の実践と検証を事業に反映

変化に富む社会情勢、まちの状況に柔軟に対応できるよう「仮説→検証→フィードバック」という演繹的なプロセスで取り組むため、社会実験「守口さんぽ」を実施しました。

事業化に向けた仮説を設定し、実践・検証をサイクル化して、より具体的なまちの課題やエリアマネジメントの担い手となる主体をあぶり出します。

小さく試すことで、仮想的にコンセプトを可視化し、市民や事業者への理解を促すことができます。

このようなプロセスを経ることで、社会変化への対応や、多様な事業者や市民のまちづくりへの参画が可能となります。



社会実験「守口さんぽ」



道路予定地での風景



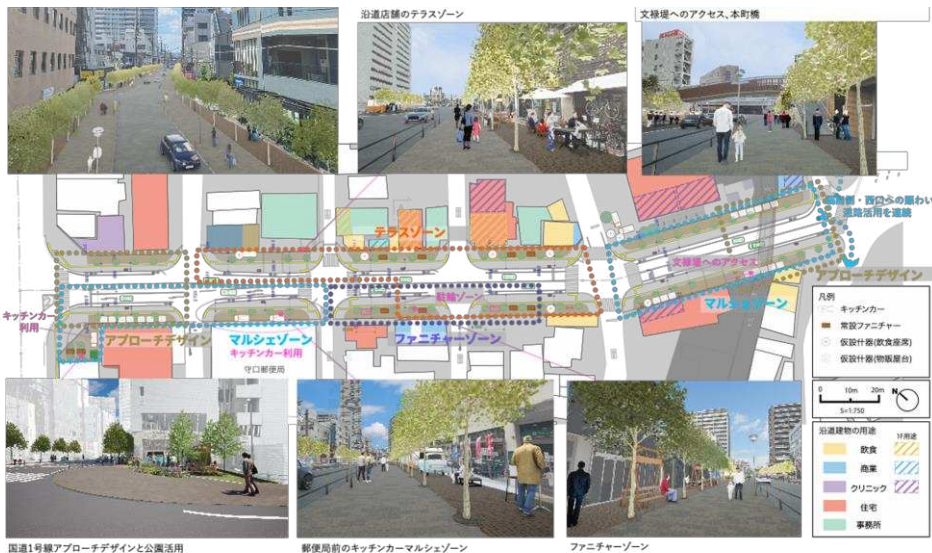
旧徳永家住宅ガレージでの風景

3. 主な事業

都市計画道路「豊秀松月線」整備事業

豊秀松月線は、「守口の顔となる新たなストリート」の南北の軸として、幅員約7mの歩道の設置に伴い、各エリアの特色をつなぎ、多様な人・活動・使い方ができ、常に守口の新しい魅力に出会える公共空間として整備します。

令和3, 4年度の社会実験の検証を踏まえ、今後、沿道店舗や近隣等事業者、市民が道路を活用したオープンテラスやマルシェ等のイベントに活用できるよう、ハード整備・ソフトのしくみ、ルールづくりを行うこととしており、令和5年度からは、道路沿道の事業者を中心とした協議会の立ち上げ及び歩道整備に向けた工事に着手しました。



デザイン方針

1. 多様な人・活動・使い方ができ、常に守口の新しい魅力に出会えるストリート
2. 文禄堤の歴史性を感じられる意匠性、立体性を活かし、文禄堤への回遊性を向上させる
3. 賑わいが滲み出す景観や環境づくり
4. 安全・安心に通行人・活動できる通り

- ・歩道部の民地側に3m程度の滞在・占用区域を設け、歩道・車道帯と分ける。
- ・歩・車道区域と滞在・占用区域の間には、街路樹を設け、ゆるやかな境界をつくり、通行安全性や滞在性、快適性を高める。
- ・沿道店舗や民地の状況に応じて、「テラスゾーン」「マルシェゾーン」「ファニチャーゾーン」を設定
- ・沿道建物のデザインガイドラインを設け、路面の景観づくりや賑わい創出に資する活用を促す。

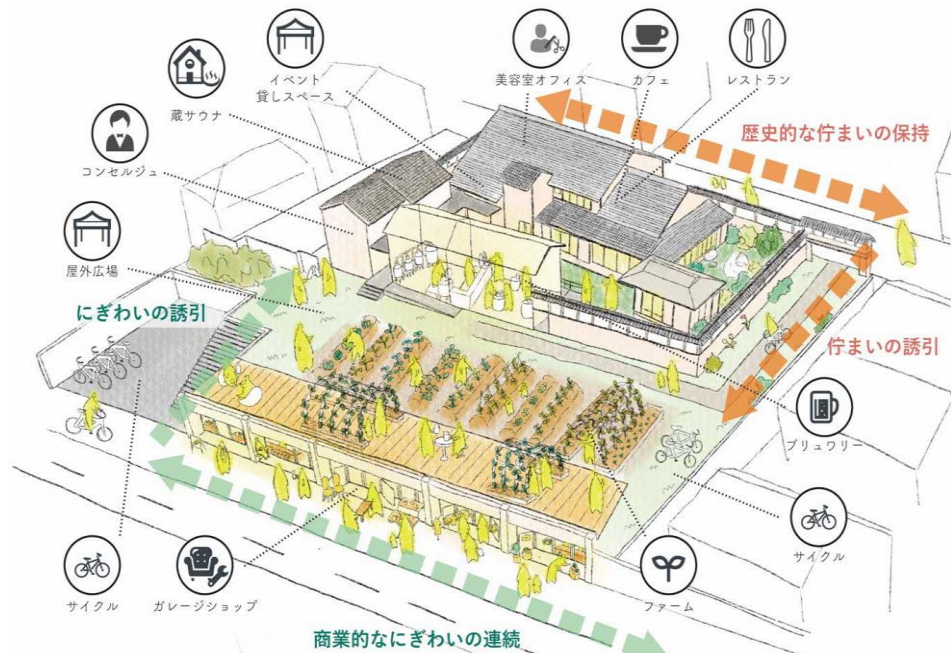
(出典：「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」(令和5年3月策定))

「旧徳永家住宅」活用事業

東海道57次守口宿の景観を今に残す伝統的家屋である「旧徳永家住宅」を、公民連携により、市民等が日常的に訪れることができ、文禄堤の歴史性を誇りに感じる、地域コミュニティの核になるような場として整備します。

令和4年度に実施した社会実験では、ガレージを活用した検証を行い、事業計画に反映しました。

令和5年度、大阪市城東区蒲生4丁目におけるまちづくりの取組み、「がもよんにぎわいプロジェクト」を主宰するアールプレイ(株)が活用事業者に決定しており、市と活用事業者が協議のうえ、令和6年度から改修工事に着手予定。令和7年度のオープンを見込んでいます。



古民家レストラン



ガレージショップ



最新情報については
守口市HPをご覧ください

旧徳永家住宅の活用イメージ

(8) 市民会館等跡地活用に係る取組 (泉大津市)

SHEEPATH PARK

シーパスパーク



わたしたちの暮らし、喜びがここにある



名前の由来

公園の名称は、市民から案を募りました。最終選考に残った2案に対して令和4年3月、市民投票が行われ、「シーパスパーク」に決定しました。SHEEPATHという単語は、「羊」の意味をもつSheepと「小径」の意味をもつPathの合成語です。公園の木々が育ち、やがて森となり、その中を泉大津市の象徴でもある羊が、のんびり歩いている。そんな風景のイメージが込められています。

シーパスパークの概要

シーパスパークは、泉大津駅西地区に位置する市民会館等跡地を活用して、令和5年6月に開園しました。

総面積約3.5ha「シーパスパーク」エリアの内、約2.0haの都市公園「シーパスパーク」と約1.5haの民間活用用地が一体となって管理運営され、緑とにぎわいのあふれる空間「シーパスパーク」エリアが形成されています。中でも、「シーパスパーク」は日常のアクティビティや多様な市民活動を受けとめる場として芝生広場や市民ガーデン・パークセンターなどが整備され、民間活用用地では、民間とともに地域の新たなアビリティを提案していく場としており、まずは令和6年度にレストランが整備される予定です。



おおほらっぱ

日常的な遊びはもちろん、ピクニック、イベント、ぜひ思い思いの過ごし方を。



どろんこリング

普段ならできないような泥遊びを、いつでもここで



シーパス山

パークを一望するもよし、芝すべりをするもよし、ちょうどいい標高5.7mの山です。

シーパスパークが目指すもの

「シーパスパーク」エリアは、市民や地域・民間とともに様々な活動を提案・実践・体感することで、泉大津の暮らしをもっと楽しく健康的にしていける、緑豊かな「ヘルシーパーク」としての役割を担っています。

このエリアから、まち全体の魅力やにぎわいの創出、市民ひとりひとりのシビックプライドの醸成を図っていくような取り組みを進めていきます。

また、みなさんと挑戦しながらアビリティ※文化を創造し、育みつづけ、泉大津の新しい暮らしを体現する基地(アビリティタウンの拠点)となることをめざしていきます。

※ アビリティとは、身体および認知機能など人が本来持っている能力、技量、才能など



すりばちシアター

すりばちのかたちをした広場劇場を眺めたいわい楽しい観客席のよう。



じゃぶじゃぶリング

じゃぶじゃぶ飛び出ししてくる水を見るとつい遊んでしまいます。冬はお休みします。



ひつじのせせらぎ

涼しげなせせらぎで、遊んだり羊とともに休憩してみるのはいかがでしょうか。



自然から楽しみ、学ぶ公園

シーパスパークでは広々とした環境の中、子どもの想像力を育みたいという想いから、遊具は設置しておらず、自然を感じて楽しむことを一つのコンセプトにしました。

園内には、子供たちが駆け回れる約5,400㎡の大きな芝生広場、「どろんこリング」、標高5.7mから芝すべりや公園全体を一望できる「シーパス山」等があり、子どもたちの自由な発想で公園を楽しめる空間としております。

他にも管理事務所と多目的利用を兼ねた「パークセンター」では、多目的室やデッキテラス(ステージ)等もあります。

シーパsparkができるまで

《市民会館等の閉館》(平成29年)

泉大津市民会館は昭和47年の開館以来、長年にわたりご利用いただいていたのですが、旧耐震基準の建物であることに加えて、雨漏りや照明、舞台設備、給排水設備などで不具合が頻発化していることから、平成28年12月末で利用を終え、平成29年3月末で閉館しました。

《市民会館等跡地活用基本計画の策定》(令和元年)

【基本方針】

まち全体の魅力向上と都市ブランド「アビリティタウン※」の形成を先導する。

【事業コンセプト】

アクティビティに溢れた「心と身体を整える」空間の形成と 市民共創による泉大津発の新たな価値の創出



※ アビリティとは、身体および認知機能などが本来持っている能力、技量、才能など

《基本設計・実施設計の作成》(令和2年)

令和2年度に実施した公園設計では、民間事業者とのサウンディングに加えて、より多くの方に利用され、にぎわいがある空間となるように、市内在住の皆さんや働いている皆さんと一緒に、魅力的な公園空間備について考えるワークショップを計4回にわたって開催し、設計に反映しました。



《公園に携わるメンバーなどを想定したコミュニティ形成に向けたワークショップの開催》(令和3～4年)

ワークショップでは、実際に公園予定地へ赴き、規模感を体感頂き、「どんなことができる公園になったらいいか」をテーマに、使い方やデザイン等の意見を集めました。

また令和3年度からは、参加者と関係性を更に発展させ、公園管理者の担い手の発掘や育成を行い、市民団体が公園を自律的に運営できるよう、支援を行いました。

さらに、完成後の公園をより多くの方が愛着を持っていただけるよう、工事業者の協力を仰ぎ、公園整備中の現場内でフェスや植樹イベントをワークショップ参加者が主体となって実施いたしました。



1	2021/9/25	キックオフ!
2	11/13	(仮称)小松公園プレフェス! ※仮設予定地
3	2022/1/15	プレフェス振り返り 次年度の活動企画
4	3/12	2022年4月30日に実施する フェスの準備
5	4/30	「完成待てない!」 新しい公園に向けてのフェス!
6	7/23	シーパsparkワークショップ
7	10/29	よりよく運営するための公園の コンセプト・仕組みづくりを考えよう
8	12/10	公園工事に参画!
9	2023/1/28	大フェス(オープニングイベント)に 向けたワークショップ
10	7/9	「とりあえずシーパ!」 シーパsparkオープニングフェス

市民主導で行った
オープニングフェスの開催(令和5年)

シーパsparkの開園を記念するとともに、これまで実施してきたワークショップの集大成として、令和5年1月に結成した「シーパspark・クラブ」が主体となって公園および民間活用用地の計約3.5haを使い、パークセンター(公園管理事務所)に併設しているデッキテラスでライブやコンサート、ダンス等のパフォーマンスと野菜・物品等の販売ブース、キッチンカー等の飲食ブースに加え、当園内での結婚式等、様々な出し物を行い、約8,000人の参加者が集まりました。



《今後の展望》

今後、市民団体の活動も活発になり、令和6年度中には、公園に隣接する民間活用用地にレストランが建設される予定であり、更に公園が賑わうものと考えております。今後も市民の皆さんが誇りを持てる公園になるように指定管理者や市民団体等と協働して公園づくりを努めて参ります。



<アクセス>
【住所】
泉大津市小松町1-55

【電車・バス】
南海泉大津駅
西出口から約10分

【車】
助松JCTから大阪臨海線29号
を経て約5分

公園内の紹介や
イベント情報等の
詳細はこちら

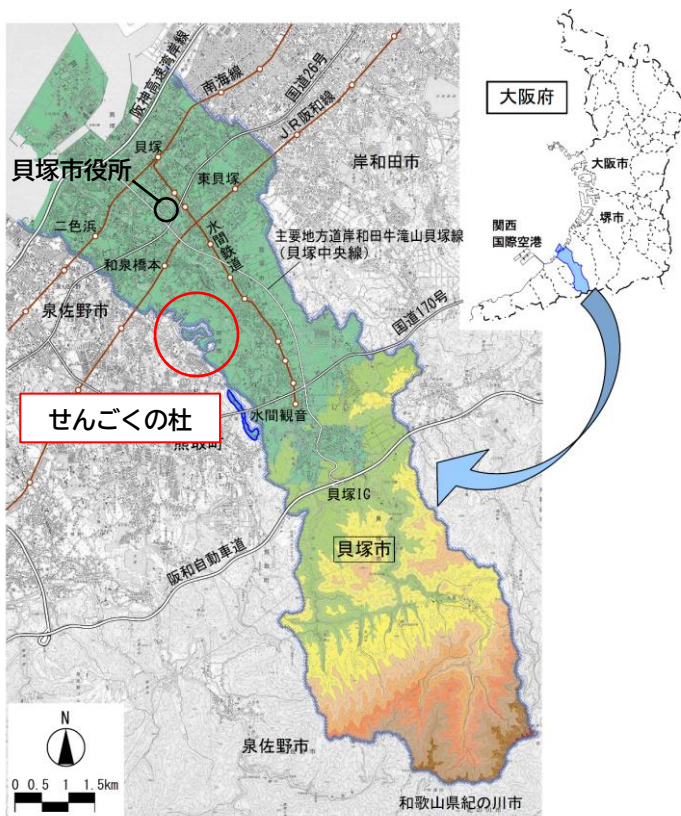


(9) せんごくの杜整備事業（貝塚市）

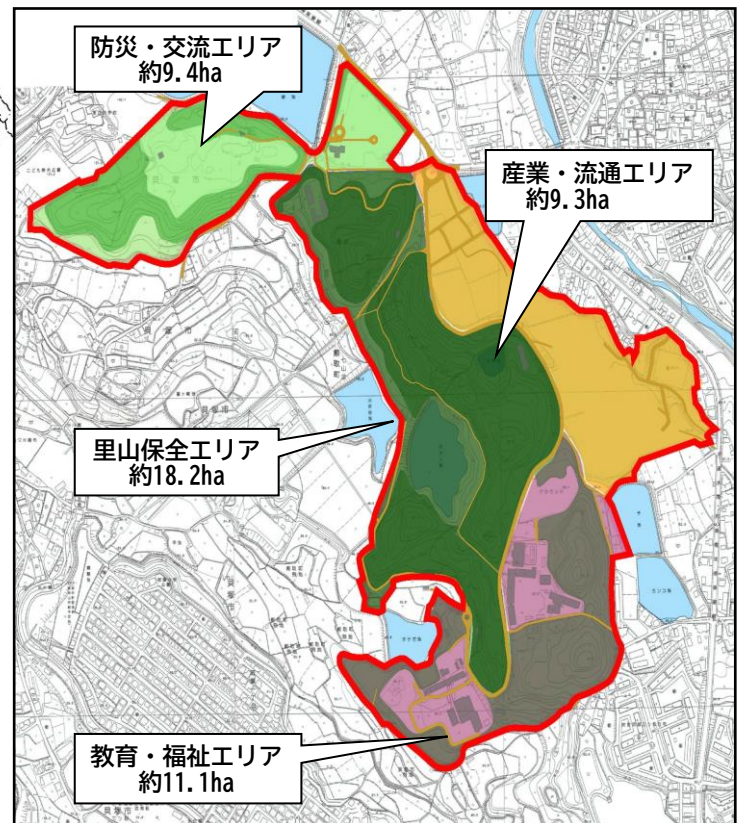
「せんごくの杜」は、貝塚市役所から南東へ1.5km、熊取町との境界に位置し、敷地面積は約48haとなっています。かつて、国立千石荘病院跡地、少年保養所、大阪市立養護学校、ピクニックセンターなどがあり、平成23年に大阪市より貝塚市（以下、「市」という。）が購入しました。

市は平成25年3月に「千石荘病院等跡地利活用構想計画」、平成28年3月に「せんごくの杜地区地区計画」策定し、その計画において4つのエリアに区分し、整備を進めてきました。

位置図



土地利用計画図



地区計画の方針

〈目的〉

豊かな自然環境を保全活用し、憩いの場や教育、福祉などの交流機能の集積・強化を目指すとともに、市民生活の利便や地域活性化などに資することを目的とする。

○ 防災交流エリア

平時は運動広場など、市民の憩いの場として活用し、災害時には救助・救援活動を行う等防災拠点としての活用を図ります。

防災広場（市立ドローン・クリケットフィールド）

旧大阪市立ピクニックセンター、郊外保育所の跡地で平成27年～平成28年に自衛隊の協力を得て整備し、防災広場を整備しました。その後、防災広場の機能を損なわない平時利用として、関西空港からも車で30分の好立地及び、DID区域（人口集中地区）外である利点を活かし、ドローンフィールドとして利用が始まりました。令和2年10月からは、天然芝生を設置し、西日本唯一のクリケットフィールドにリニューアルしました。このフィールドでは、クリケット国際大会、ドローンレースなどが行われました。



○ **里山保全エリア**

現存する森林は里山として保全し、歴史遺産でもある千石堀城址周辺については散策路等の整備を図ることによって、周辺の自然環境や歴史遺産を活用した市民のふれあいの場を確保します。

里山



市立里山交流センター

里山内には、コナラやクヌギなど雑木林で形成され、カブトムシやクワガタなど甲虫が生息しており、準絶滅危惧種に指定されている難波トンボやネキトンボ、ベニイトトンボも確認されています。最近まではネザサが繁茂し、里山の環境が失われていましたが、市民ボランティア「せんごくの杜～さくらの里～」の方々と市が共働で「里山再生活動」を継続して実施し、現在では、散策道や、関西空港まで望める展望台も復元されています。四季折々の風景が楽しめる、身近な里山として、学校遠足や子育てサークルの外遊びなどに利用されるなど、憩いの場として活用されています。また、里山交流センターには、里山に来られた方が常時使用できるトイレを整備しています。

○ **産業流通エリア**

自然環境と調和した産業・流通施設等の立地を図ることによって雇用促進や交流人口の増加などに資する産業振興とコミュニティ機能が備わった魅力のある都市空間を確保します。



着工前



造成後

企業の誘致（千石荘病院跡地）

公募により決定した物流事業者の開発事業により、道路拡幅や下水道敷設などインフラ整備がされました。また周囲には遊歩道や緑地が設置されるなど、自然環境に配慮した整備が進められています。

（株）PALTAC（本社：大阪市）操業予定）

○ **教育・福祉エリア**

福祉教育関連施設の立地を図ることによって、豊かな緑と融合した福祉・健康・教育の複合交流拠点施設の場を確保します。



障がい者就労支援施設（少年保養所跡地）

レストラン「森の小径」、乗馬クラブ「ハーモニーファーム野のはな」は、障がい者の就労支援事業として「社会福祉法人野のはなが運営しています。豊かな自然の中で育てられた自家製野菜を使用した料理を楽しめるなど、人気のスポットとなっています。

【泉州山手線整備事業：事業主体 大阪府】

事業スケジュール（貝塚中央線～水間和泉橋本停車場線区間）

令和2年～令和3年度	測量・設計
令和4年～令和8年度	用地買収
令和7年～令和11年度	工事
令和11年度	完成



大阪府岸和田土木事務所HPより

(10) 狭山池を中心とした水とみどりのネットワーク事業（大阪狭山市）

1. 事業概要

『大阪狭山市水とみどりのネットワーク構想』に基づき、狭山池を中心としたにぎわい拠点の創出や遊歩道整備、エリアマネジメント体制の構築などに取り組んでいます。

『大阪狭山市水とみどりのネットワーク構想（令和2年3月策定）』

【位置図】



出典：市提供資料

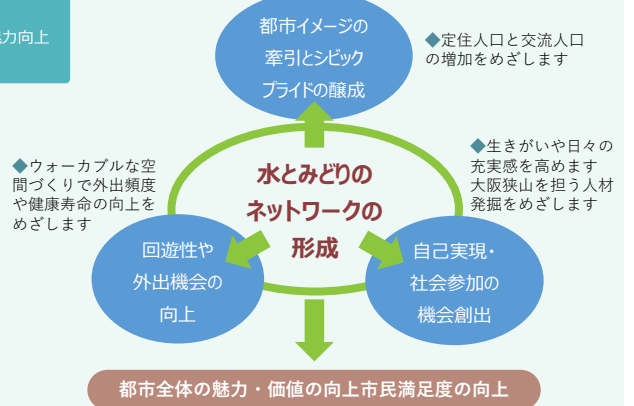
【基本方針】

- ◆ベースとなるネットワークの再編
- ◆ネットワークの拠点となる「水とみどり空間」における魅力向上
- ◆公園や水辺空間等を活用した、市民活動のステージづくり

【ライフシーンのイメージ】

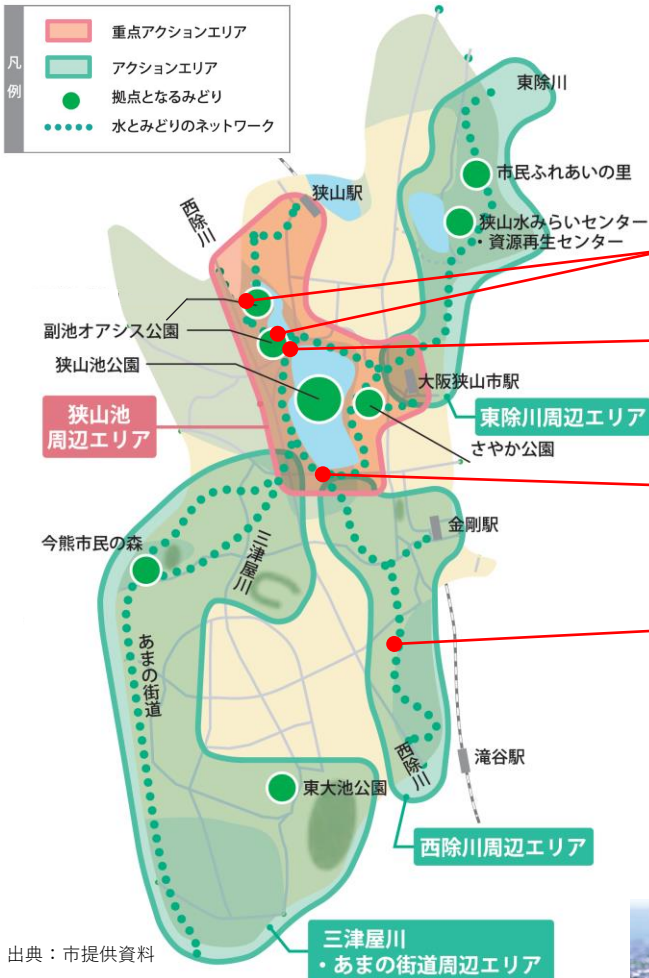
- 遊ぶ・憩う
学ぶ
水とみどり溢れる環境を活かした子育てや憩いの時間が日常のファンションに！
- 体験する
交流する
手軽に自然を体験し、“都心と自然を感じる郊外型ライフスタイル”を楽しむ！
- 運動する
健康になる
豊かな自然環境の中で、運動やスポーツを通じ、交流や自分磨きを楽しめる！

【基本目標】



出典：市提供資料

- 重点アクションエリア
- アクションエリア
- 拠点となるみどり
- 水とみどりのネットワーク



出典：市提供資料

【これまでの取り組みの概要】

副池オアシス公園の全面リニューアル（R4年度）

- ・公民連携事業による公園施設（飲食機能）の設置
- ・「あそびの丘」「ちびっこ広場」の整備
- ・トイレ、駐車場整備、既存施設の改修
- ・バス停リニューアル（上屋・ミスト設置、名称変更）

狭山池交流拠点「さやりんBase」オープン（R4年度）

- ・狭山池ダム管理事務所を改修し交流拠点機能を導入

狭山池橋下アンダーパス開通（R2年度）

- ・幹線道路を渡り西除川の遊歩道へのアクセスできるアンダーパスの整備

水とみどりのネットワーク遊歩道整備（R2年度～）

- ・西除川遊歩道のリニューアル

エリアマネジメントの取り組み（R2年度～）

- ・狭山池を核としたまちづくり協議会
- ・狭山池まつり、花火ナイト など



【重点アクションエリアとアクションエリア】

- 狭山池周辺エリアを重点アクションエリアとして位置づけ、ネットワークの中心拠点（ハブ）かつ市のシンボルエリアとして、リーディング・プロジェクトを展開しています。
- 西除川周辺エリア、三津屋川・あまの街道周辺エリア、東除川周辺エリアをアクションエリアと位置づけ、重点アクションエリアの取組みと連携しながら各エリアの特色を活かした種々の取組みを展開しています。



副池オアシス公園(公民連携施設)



副池オアシス公園 (ちびっこ広場)



副池オアシス公園 (あそびの丘)



狭山池まつり



「さやりんBase」のイベント



狭山池橋下アンダーパス



狭山池交流拠点「さやりんBase」



狭山池橋下アンダーパス



西除川遊歩道

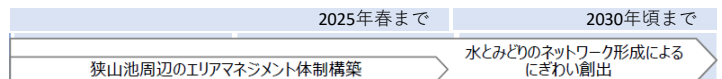


花火ナイト2023



2. 今後の予定

大阪府、近隣市、狭山池を核としたまちづくり協議会をはじめとする関係団体等と連携しながら、狭山池を中心とした各エリアの『にぎわいづくり』や『水とみどりのネットワーク形成』を継続して進めるとともに、狭山池が広域的な南大阪の魅力発信の拠点となるよう必要な取組みを促進します。



出典：大阪のまちづくりランドデザイン

水とみどりのネットワーク形成によるにぎわい創出

狭山池を中心とした、河川沿いの遊歩道やあまの街道など水とみどりを感じられるネットワーク形成を継続して進めるにあたり、狭山ニュータウンと堺市泉北ニュータウンとの交通連携によるネットワークの強化、金剛駅や泉ヶ丘駅などの交通結節点や公共交通機関との広域的な連携、市全体のウォークラブルなまちづくりや、その他多くの人が集まる施設などへのアクセスなど、市域を越えたエリア一体のまちづくりに取組みます。

狭山池周辺のエリアマネジメント体制構築

狭山池を核としたまちづくり協議会等の関係団体等と連携しながら、水とみどりの空間を活用した様々な取組を展開します。



3. 交通アクセス

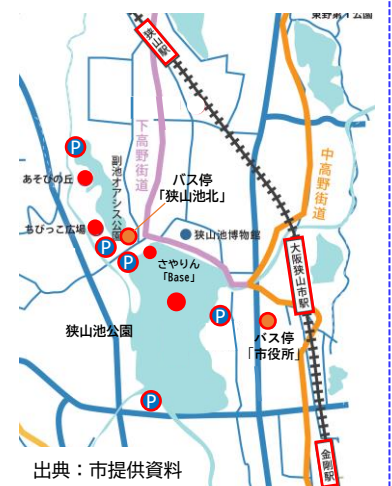
狭山池公園へのアクセス

- ◆南海電気鉄道高野線「金剛駅」から徒歩18分
「大阪狭山市駅」から徒歩10分、「狭山駅」から徒歩15分
- ◆駐車場 狭山池「北側：121台」（7時～20時開場）
「南西側：25台」及び「東側：23台」（8時～19時開場）

副池オアシス公園へのアクセス

- ・南海電気鉄道高野線「大阪狭山市駅」から徒歩17分
「狭山駅」から徒歩12分
- ・駐車場
「狭山池北バス停前：65台」（6時30分～22時開場）
「あそびの丘：15台」（8時～19時開場）
- ・市循環バス：南回りBコース
市役所（毎時30分発）→狭山池北（3分程度）
※市役所発は7時30分～17時30分まで運行

※駐車場について、イベント等開催時は開場時間や台数を変更する場合があります。



出典：市提供資料



(堺市)
堺東駅前周辺の将来像 (堺都心未来創造ビジョン)



(池田市)
いけだ駅前活性化プロジェクト



(箕面市)
北大阪急行線延伸と関連まちづくり



(茨木市)
茨木市市民会館跡地エリア活用



(寝屋川市)
寝屋川公園駅周辺のまちづくり
望が丘小学校・中学校 (施設一体型小中一貫校)



(守口市)
守口市駅北側エリアマネジメントの推進



(泉大津市)
市民会館等跡地活用に係る取組



(貝塚市)
せんごくの杜整備事業



(大阪狭山市)
狭山池を中心とした水とみどりのネットワーク事業

大阪のまちづくりランドデザイン まちづくりレポート

〈問合せ先〉

大阪府・大阪市 大阪都市計画局 計画推進室
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎 (さきしまコスモタワー) 33階
電話：06-6210-9811

堺市 建築都市局 都市計画部 都市計画課
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号
電話：072-228-8398

2024年5月作成